

2008年(平成20年)12月16日(火曜日)

孺恋村と明治大学

地域活性化で協力協定

知的財産や 人材活用 全学部へ波及期待

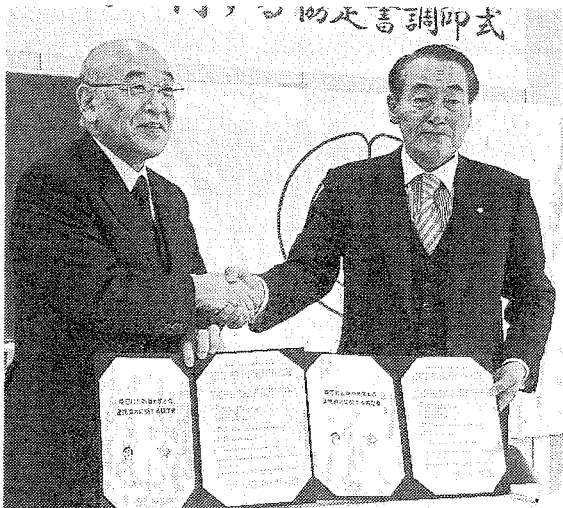
孺恋村と明治大学(東京都千代田区)は十四日、文化や教育、地域活性化などの分野で協力する協定を締結した。同大商学部のゼミと同村は、三年ほど前から村の活性化に向け、連携して取り組んでおり、今後はそつした協力関係を全学部に広げていく考えだ。

を行っている。

協定書には地域社会への貢献と人材育成を目的に、文化や教育、

地域活性化などの分野で村と大学が連携、協力していくことが明記されている。今後は村の農業分野と農学部のタイアップなど、商学部以外にも協力関係が広がることが期待されている。

村役場での調印式で、熊川栄村長と納谷広美学長が協定書にサインし笑顔で握手。熊川村長は「大学の知的財産や人材を生かして村を世界にアピールしたい」と期待を込め、納谷学長は「研究や教育だけでなく、社会貢献という新しい大学の役割を果たしたい」と抱負を述べた。



協定を締結し、握手を交わす熊川村長(右)と納谷学長

同村と商学部は二〇〇五年度、文部科学省の事業として村のアンテナショップを千代田区にオープン。昨年度は地域のリーダー育成を目的に、同大教授らによる講座を村内で実施した。

同講座を契機に、村の魅力発信を目的としたNPO法人「好きで孺恋」が発足。現在、受講生や同大関係者が参加し、コミュニケーション紙の発行など